

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2590200115		
法人名	有限会社SKY-Tカンパニー		
事業所名	グループホームつぼみ		
所在地	彦根市鳥居本町1455-7		
自己評価作成日	平成27年6月10日	評価結果市町村受理日	平成27年8月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店 2階		
訪問調査日	平成27年7月22日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様または家族様の気持ちを教えていただき 生活しやすい環境作りを目指しています。また、ご利用者様同士も仲良く 穏やかに過ごしておられます。 食事は三食手作りです。また季節に応じた野菜を畑で利用者さんと育てています。収穫できたものをすぐに料理して食べます。今年はほうれん草が山のようにでき、ご近所におすそ分けしました。主治医との連絡が取れやすく 何かにつけ相談をさせていただいています。理念でもある「家庭的な雰囲気」を大切に和気あいあいと過ごしています。今年も夏祭りを計画しており、地域の皆様にも家族様にも参加していただきたいと考えています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

中山道、鳥居本宿沿いの一角に開設から5年を経過した当事業所がある。「尊厳を保ち、その人らしさを大切に支援し、日々安心して、生きる希望と…、ご家族や地域との連携を図る。」を理念に掲げている。その実践に向け、家庭的雰囲気の中で、かけがえのない人として尊重しながら自立への手伝いと少しでも家族の負担を軽くするため、家族との関係を築く事に取り組んでいる。夏祭りや諸行事を開催する事で家族との交流を一層深めている。運営推進会議は駐在所の警察官が構成員として、意見や啓発を行う一方、事業所との連携にも役立っている。職員は利用者と寄り添いの中で自然な形でスキンシップを図り、肩や背中に手を添えたり、手を触れ合っている。そんな環境の中で平均介護度3.5強だが、利用者は安心し、一方畑作りでは職員を指図して元気に日々を過ごしている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	見やすいところに貼られており、毎日見ている。仕事に入る前は理念を思い心がけている。ミーティングで理念に適ったケアかを振り返っている	地域において家庭の雰囲気、心安らぐ生活が送れるよう、尊敬をもってケアに努める。と理念を展開し、職員は日々のケアをミーティング等で振り返りながら実践にあたっている。家族に契約時、丁寧に理念を説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日など散歩へ出た時、挨拶をしたり交流している。餅つきや夏祭りの案内を配り参加を呼び掛けている。収穫できた野菜をおすそ分けしている	自治会への加入は未だ受け入れられていないが、事業所の夏祭り、餅つき大会、避難訓練開催時にはチラシを作り、近隣に利用者とポスティングしている。小学校の運動会、地域の文化祭には招待を受け参加している。	事業所が地域の一員として事業所の力を活かした地域貢献を模索し発信や実行で交流が密になる事を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の活動に利用者さんと参加し地域の方々に触れ合うことで認知症の人の理解をしていただけるように心掛けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括、民生委員さん、交番の警察官、家族で構成されている。夏祭りのお知らせを「いきいき鳥居本」に掲載する協力をしていただいた	会議は、交番の警察官等の参加で2ヶ月毎に開催している。事業所の取り組みの報告や地域と交流の進め方、防犯等の課題について協議している。協議結果で学区内広報誌に事業所の行事掲載が実現した。	会議の構成員を通し、地域住民への介護相談の受け入れや事業所に設置のAEDの活用等、地域住民へPRの一助となる事を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	訪問、または電話連絡により、少しでも疑問があれば問い合わせ、協力関係ができるように心掛けている	毎回、包括支援センター職員の運営推進会議への参加があり、事業所の実情を積極的に伝え、情報を共有している。徘徊時の緊急通報の登録、看取り体制と加算など、福祉課との連携も図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。また、施錠も行っていない。万一、徘徊行動に備え、「徘徊配信依頼」票を発行し行政や駐在所と連携を図っている	虐待防止マニュアル・身体拘束ゼロの手引を活用して、内部研修を行ない共有を図っている。職員のスピーチロックも都度、ミーティングで話し合い意識合っている。利用者の外出行動の予兆を把握し見守りと行動を一緒にしている。更に気分転換を図る工夫をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	何かあれば職員間で話し合い虐待はあってはならないことを周知徹底している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前成年後見人制度を利用されている方がおられ、理解できている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、本人や家族様の気持ちをお聞きし疑問に思われるところは説明し納得していただいている。また解約時は 家族様に不安の無いように相談させていただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様が面会に来られた時、現在の状況など報告し、家族様の思いなど聞いている。意向で事業所で実施している機能維持トレーニングの記録票を作成し家族に開示した。	家族の来訪時こそ意見要望を聞くチャンスと捉え、必ず職員が対応に当たり傾聴に努めている。遠方の家族にはスマートフォンのラインを活用し、日常の様子を記載したり、誕生会の写真を送ったりして意見交換している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会議を設け意見を来ている。必要な備品などあれば購入している	管理者は職員と同じシフト時、日常的に意見や提案を言い易い雰囲気作りをして聞き取り、話し合っている。毎年、運営者がアンケートを下に、個人面談を行い、意見や意向を聞き運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人ひとりの意見を聞く時間を設けることにより仕事への思いや考えを聞き、施設運営の向上に努めている。職員アンケートをとり状況把握に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等には個々に必要とされる内容に参加させている。職員の技術の向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	彦愛犬のグループホームで構成する「いっぺん集まってみよう会」というものが2か月に一回あり、研修など行い参加している。前回はホテルで利用者さんと一緒に食事をした		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に利用者様家族様にお会いし現在までの生活や今後の課題など不安に思っておられる事を傾聴し、また見学に来ていただいたり、安心していただけるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みや見学に来られた際、ゆっくりと時間をかけ家族様の思いを聞き施設についても納得していただけるように心がけている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人家族の希望をできるだけ受け入れ、ご本人が居心地のよい環境について考え、家族と相談しながら、ケアプランを作成している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自分で出来る事はしていただき、人生の先輩として教えていただける事は教えていただき良い環境の下生活できるように心がけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあれば状況の報告を常に行い、家族との連絡を密にとっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人への電話や手紙のやり取り、また、訪問など時間の許す限り十分に行われている。	利用者の教え子等、知人の来訪時は居室でゆっくりと話ができるよう配慮したり、受診の送迎時、馴染みの地域・場所へ迂回し、関係が途切れないよう支援している。電話や手紙のやりとり等のつなぎ役として支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席などその日の利用者の状況により配慮している。職員が間に入り良い環境が保てるように心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他のグループホームに変わられた方がいるが、そこへ訪問したりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に希望、意向を把握し職員同士で話し合いを行い、できる限り希望に添えるように努力している。	入浴時、夜勤時の会話から、利用者の本音を把握し、意向に沿えるように経過表や申し送りノートに記録し、実践に活かしている。日頃の利用者の仕草、表情、言葉掛けに対する返答等も意向の把握に役立っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様がわかる範囲で利用者様の年代別生活がわかるよう用紙に記入していただき、理解できるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタル測定を行い健康状態を観察している。また経過表に変化を書きとめ、職員みんなで共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行い状態を把握し、ご本人や家族様にあった介護計画を作成している	利用者の意向等、情報を収集し介護計画を作成している。本人の意向に沿っているかカンファレンス、モニタリングを実施し、状態に変化が無くても3ヶ月毎に計画の見直しを行い、家族に説明し承諾を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に支援経過の記録を行っている。また申し送りノートを活用し内容は職員全員が活用できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の散髪は、地域の美容院にお願いし出張していただいている。また利用者様の季節の洋服など家族がいけない場合は同行し一緒に買い物している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員の方に情報をいただき 地域の文化祭など参加出来る事はしていきたいと思う。小学校の運動会など招待していただき 利用者様も楽しんでおられた		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の了解の下、定期的に受診に行っている。また、体調に変化があれば看護師が主治医と連絡を取り、対応している。その結果は家族に報告している。	家族の希望に応じ全員が従来のかかりつけ医を協力医に切り替えた。月1回、往診を受けている。通院は職員が同行しているが、受診にあたり看護職員が日頃から纏めている、医療連携表を提示し連携を保っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員とは情報 気づきを相談、共有し適切な対応を行えるように努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供は行っている。入院中も様子を見に行っている。退院時には、ご本人の変化や今後の対応について情報をいただいている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期については、家族の意向をできる限り添えるように努力している。終末期については 書面にてご家族様の意思表示をいただいている	重度化や終末期の対応指針書を作成し、利用契約時に説明し同意書を交わしている。終末期の段階で「終末期対応の合意と意思表示」、「看取り介護に関する同意書」を家族と交わしケアに当たっている。係る研修は受講しているが看取りケアの経験者は少なく、不安を持つ職員もいる。	全ての職員が方針に基づく対応が出来るよう、職員の教育や心構え等を事業所としての支援体制づくり等の環境整備が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	常に話し合い、看護師に相談している。緊急時は施設長が常に待機し対応できるようにになっている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練は行っている。地区避難指定場所への避難について自治会には加入していないが、受け入れ態勢は出来ている。	避難、誘導訓練、消火訓練は消防署の指導の下で年2回、夜間想定も含み実施した。訓練の案内チラシをポスティングしているが地域住民の参加や協力体制はまだ整っていない。	地域の理解と協力体制が不可欠であり、訓練が近隣住民の参加を得て実施する事を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にもあるように利用者様に尊敬の気持ちを持って接している。失禁などされた場合でもそれとなく周囲に気づかれないよう対応している	接遇マナーについての研修への参加や、会議の中でも全職員が周知するよう話し合っている。利用者に尊敬の態度を持って、プライドを傷つけない様ゆくり、おだやかな声掛けや誘導を常に意識し努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝、「まだ寝ていたい」など言われ起床の時間は本人に任せている。また おやつのは何が飲みたいかメニューの中から選んでいただいている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間 入浴時間等ある程度本人のペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	特に女性の方は ご自分で服を選ばれる。できない方は これでいいですか？と尋ねている。男性は髭が伸びていないか常に様子を確認し、本人に伝えている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の体調や気分を見ながら、食器洗いや調理、盛り付けを手伝っていただいている。職員と一緒に食事をとることで味付け等、話も弾み心地良い時間になっている	利用者が一番楽しみにしている食事は、三食共、おやつも手作りで、担当職員は利用者一人ひとりの好みを把握し、時に個別に対応して見た目や味に拘りを持ってとりみ食等も調理している。美味しく、食事を楽しんでもらえる事を励みとしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量については毎日記録している。食事が少ないときは代替え品を用意し、水分については、できるだけ飲んでいただくようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は声掛けを行い、そうでない方は手助けしている。就寝前は義歯を外し、洗浄剤につける。歯の状態の悪い方は、歯科受診をされている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一日の様子を記録することでご本人の排泄パターンがわかる。それにより 声掛けまたは 介助を行っているほぼ全員がリハビリパンツ、パッドを使用しているが、トイレでの排泄を誘導している。	排泄記録から各人のパターンを把握し、トイレでの排泄に向け声掛けや誘導に努めている。便座の高さを変える等、使いやすいトイレの工夫も行なっている。体調により夜間のみポータブルで対応をする事もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や体操などできる方はいただいている。また 水分補給や排便を促すお茶など飲んでいただき 予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一応は決まっているが 本人の希望により入浴されている。個浴で一人ひとりゆっくり入られている。	入浴は隔日に、14時～17時頃までの間で希望に合わせて行っている。風呂は毎日用意し、毎日入浴する利用者もいる。入浴剤を利用し色や香りを楽しみながらゆっくり入って貰える様配慮している。同性介助に心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者さんの習慣や体調に合わせて休んでおられる。また、天気の良い日は布団を干し、気持ち良くして休んでいただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師だけでなく職員も二重チェックを行い、薬の作用や副作用を知ることができる。また、薬が追加や変更になった場合は申し送りを行い様子観察している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	簡単なレクや家事を手伝ってくださり「助かりましたありがとう」と伝えると喜んでくださる。外部からボランティアを呼んだり、季節により行事を行っている。畑を手伝ってくださり収穫の時は皆で喜んだ		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節により外出している。また 施設の買物がある時は 順番に同行していただいている	利用者は日常的に近くを散歩したり、畑、花壇の世話を主導的に行い肥料等の買い物や食材の買い出しに同行している。花見、紅葉狩り、初詣等、年数回、全員揃っての外出は困難になってきたが、個別に支援し気分転換を図っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額に関しては自己管理されている方がいる。必要に応じ買い物ができるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望通りに行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	できる限り家庭の雰囲気を保ちながら生活していただけるように工夫している	リビングは明るく、季節毎の利用者の貼り絵作品や催し時の写真を飾っている。食卓の配置を定期的に模様替えし、新鮮な雰囲気を作り出している。共用空間は掃除を常に行い、清潔保持に努めている。ソファの配置も利用者の動線を考慮し安全に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれ好きな場所でゆっくりされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人家族と話し合い使い慣れた物を持参していただいている。壁に掛け軸や位牌を置いておかれる利用者様が居られる	長年馴染んだ身の回り品を持ち込み、思い出の品や家族、好きな俳優の写真を飾って、落ち着いて過ごせるよう工夫している。今までの習慣や、空調の風が直接当たらないようにベッドの位置を配慮する等、居心地よく過ごせる配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋がわかるように表札をつけている。また、トイレにはトイレのマークがついていて、各部屋からわかりやすい位置になっている。各部屋に洗面台があり整容ができる。		

## 2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	自治会に加入できないので、地域との連携が取れにくい状況である。	◎地域の方との交流が出来る	行事等で地域の方が参加して頂けるものは、事前にチラシなどでお知らせする。地域の祭りや文化祭などは出来るだけ利用者さんと参加する	12ヶ月
2	33	重度化、終末期については家族の意向に出来るだけ添えるように努力はしているが、看取りケアの経験者が少なく、不安を感じる職員もいる	◎重度化・終末期に向けての支援体制が整う	職員の教育(研修に参加)・不安がなくなる体制づくり	12ヶ月
3	35	定期的に消防訓練は行っているが、地域住民の参加はない	◎近隣住民の参加を得る	運営推進会議の日に行う。地域住民の方に避難訓練の必要性を理解していただく	12ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。